



**INGINGMOTORSPORT.**



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

# INGING NEWS PAPER 2014 VOL.03

## GET POINT FOR FIFTH PRIZE

TAKE FREE 無料

国本、予想外の苦戦を強いられるも、粘り強い走りで2レースとも入賞を果たす



Race Report

Round.2 FUJI SPEEDWAY 5/18 Final

決勝 2014年5月18日 富士スピードウェイ

SUPER FORMULA FUJI SPEEDWAY 7/12-7/13

Support by © cyber net

INGING NEWS PAPER VOL.03 [インギング ニュースペーパー]

発行：株式会社サイバーネット 西日本事業部  
〒566-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル5F



Race Report 決勝 2014年5月18日 富士スピードウェイ

Round.2 FUJI SPEEDWAY 5/18 Final

天候:晴れ | コース状況:ドライ | Race1 - 33Laps 114.095km / Race2 - 35Laps 159.703km

約115kmのと約160kmの1大会2レース制でのバトル

2戦目を迎えたSUPER FORMULA。通常とは異なるレース距離約115kmのレース1と約160kmのレース2の大会2レース制で行われ、P.MU/ CERUMO-INGINGの2台がメインドライバーを務める石浦宏明と国本雄資、2人のドライバーも懸命なドライビングを披露した。第1レースでは4番手グリッドからスタートした国本が粘り強い走りでの入賞を果たす。国本は第2レースでも予想外の苦戦は強いられながらも7位でチェッカーを受け、リタイアに終わった開幕戦の「盛りを過ぎ」格好となった。一方、予選で下位に沈んだ石浦は、一度磨いたリズムを修正できず、第1レースではオープンラップにアクシデントを味わい、リタイア。第2レースでもまさか見せたものの、第1レースのアクシデントでペナルティを課せられ、下位に甘んじてしまった。



今回は朝のフリー走行を走ることなく、午前10時5分からレース1がスタートする。レーススタート時は気温と路面温度がそれぞれ22℃/33℃。チェッカー前には22℃/34℃とほぼ一定。もちろんタイヤコンディションは、4番手グリッドからスタートした国本は、スタートで少し出遅れたものの1周目から先頭を走ることに成功した。だが2周目の13コーナでアンドレ・ロッテラー選手に先行を許し、11番手にポジションダウン。その後は、後方から追い上げてくるマシンとの攻防戦を展開するが最後までペースで走り1秒差で逃げ切った5位入賞を果たすことになる。

一方、7番手グリッドからスタートでジャンプアップした石浦は、ロッテラー選手と先を争いながら13コーナでアブローシイキで、ここで押し出され、11番手にポジションダウン。さらに13コーナで平川選手とのバトルを繰り返しながらポジションを上げていき、11番手に戻り、11番手と接触、両車ともにこのコーナーでリタイアとなってしまった。さらに、この接触に関して石浦にはドライブレコーダーが設置されておらず、本来なら、レース1のうちに消化されるはずのペナルティだったが、オープンラップでリタイアしていたために、レース2のスタートから3周目までに消化すること、と話し書きが付き、これで事実上、レース2の権利も失ってしまうことになった。

スタート進行中で行われるウォームアップでは石浦と国本が2人揃って快調なペースを維持し、1分27秒前半の好タイムで、ポジション的にも4-5番手、決勝レースに期待を繋ぐことになる。

レース1と同様、4番手グリッドからスタートした国本は、ひとつポジションを落とすとしてしまい、5位でオープンラップを経験すると、さらに3周目にはジェームス・ロス選手との先行を許してしまう。その後、何度もロッテラー選手をバウンディングしようとする国本だったが、国本には抜くことができない。そこでチームではルーティンのピットインを早めるよう作戦を変更。5周を終えたところで国本はピットイン、タイヤを4本交換すると最低限のタイムロスでピットアウト。16番手でレースを再開すると、以後は粘り強く走行。上位陣がルーティンのピットインを行うたびにペース。また、ひとつポジションをアップ。その間も、先行する平川選手を何となく追いつくペースを維持した国本は、15周目の13コーナで何となく接触を喫している。ただし、平川選手をパスするのに手間取った分、さらに上のポジションを狙うには35周のレースは短すぎた。結局、そのままポジションをキープして7位でチェッカーを受けた国本は、レース1の5位入賞と合わせて3ポイントを獲得。ランキングでも8位となっている。

一方、スタート直後にドライブレコーダーを消化した石浦。これで上位入賞の望みは断たれてしまったが、次回、ここ富士で行われるシリーズ第3戦に向けて、より多くのデータを収集しようとする意図でドライビングを続ける。ルーティンピットインのタイミングは、2番手まで出遅れた石浦は、19周目にピットインを終えて14番手で再スタートすると、なおも3位をキープして11位でチェッカー。ポイントには届かなかったがベストラップでも、レースのファステストラップをマークしたジョアン・パロ・デ・オリベラ選手のベストラップに0.03秒差で2番手となる好タイムをマーク。今更ながら、ペナルティが悔やまれる結果となった。

不運なハプニングに陥った石浦はもちろん、2レースともに入賞を果たした国本も、本来のポテンシャルを結果に繋げただけではなく、その分相しさを残るシリーズ第2戦となったが、同じ富士スピードウェイで開催される第3戦に向けて、2人が表彰台に立つことを期待したい。

Round 02 Race Comments

Driver Number 38 H.Ishihara 石浦 宏明

1レース目は上手にスタートダッシュを決めてアンドレ・ロッテラー選手と並ぶところまでは行きましたが、でも並んで入っていったロッテラー選手に抜かれてしまいました。ポジションをダウンさせてしまいました。それで何とか挽回しようとアプッシュして行って、姿勢を乱してしまいました。何とかステアリングで修正はできたんですが、今度はカーブがでてきて、あれは完全にミスした。平川もチームにも申し訳ないことをしてしまっています。でもそのペナルティは失ってしまいました。でも1周でも多く走ってデータを採ると、次に取っ組みしてレースに臨みます。スタートしてすぐにペナルティを消化した。順位的にはこんなのかなと思いますが、速さでは充分手応えがあります。ドライブレコーダーで40秒ほどロスしたと考えると、非常に表彰台へ入ったんじゃないかな。そう考えると、結構いいのですが、次回はまだ表彰台に登れるよう頑張ります。

Driver Number 39 Y.Kunimoto 国本 雄資

レース1もレース2も、スタートが上手くなかったですね(苦笑)。レース1では何とかポジションをキープしたんですが、2周目にアンドレ・ロッテラー選手に抜かれてしまいました。レース2ではスタートで一つポジションダウンしただけでなく3周目にはジェームス・(ロッテラー選手)に抜かれてしまったので、早めにルーティンのピットインをすることになりました。ピットインではチームが最高の仕事してくれましたが、ピットアウトしたのが平川君(平川選手)の後ろになってしまいました。上位を狙うためには1周でも早く(平川選手)を抜きたかったんですが、随分手間取ってしまいました。結局最後は粘るのに手間取ってしまったことで、大ききポジションを奪うことなくチェッカーになってしまいました。2レースともに入賞してポイントを増やすことができたのは良かったです。本当ならもっと上の(ポジション)でゴールできていた。そう思うんですけど。次も富士が舞台なので、予選から頑張って、決勝レースでもスタートを上手に決めて上位入賞したいです。

Team director Y.Tachikawa 立川 祐路

38号車の石浦(宏明選手)は、1レース目がすべてでしたね。あの接触でペナルティを課せられてしまい、1レースだけじゃなく2レースも可能性を失ってしまいました。2レース目のレースラップを見てみるとトップグループとそんなにペースを走ることができていた。ペナルティさえなければ表彰台に入ったであろうな、と、もったいなかったですね。39号車の国本(雄資選手)は、せっかくの好スタートでトップグループに抜いていながらスタートで出遅れてしまいました。これももったいなかったですね。セッティングのせいなのか、2台ともに1台だけで走っているという悪いペースで走っているのが、先行でマシンをパスするのは簡単じゃなかったようですね。ポテンシャルを結果に繋げることができずに残念な週末になってしまいました。でも、今回得たデータで、次回(7月のシリーズ第3戦)の富士までにもっともっとクルマを速くして、是非とも2人揃って表彰台に立ちたいと思っています。

予想外の苦戦を強いられるも、粘り強い走りでも入賞を果たす GET POINT FOR FIFTH PRIZE



NONO.COM/SHOJI